

各位



当金庫の2020年度決算の概要等について

拝啓 時下ますますご清栄のことお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

標記の件につきまして、下記のとおり、お知らせいたします。

敬 具

記

1. 2020年度（第77期）決算の概要

(1) 収益・利益等の状況

(単位：百万円、%、ポイント)

	2019年度	2020年度	前期比増減
経常収益	4,218	4,149	△69
経常費用	3,857	3,838	△18
経常利益	361	311	△50
当期純利益	286	294	8
自己資本比率	9.21	9.14	△0.07

経常収益は、過年度に貸倒処理した不良債権先からの回収を図った結果、償却債権取立益の計上があったものの、資金運用収益の減少に加えて、2019年度計上した株式等売却益の影響が剥落したこと等により、前期比69百万円減少（同比△1.63%）の41億49百万円となりました。

経常費用は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延による影響を個別貸倒引当金に反映し、戻入超から繰入超に転じたものの、物件費を中心に経費の抑制が図られたこと等により、前期比18百万円減少（同比△0.48%）の38億38百万円となりました。

その結果、経常利益は、前期比50百万円減少（同比△13.91%）の3億11百万円となり、当期純利益は、旧店舗用地（遊休資産）の区画整理に伴う建物移転補償金受取り（特別利益計上）等により、前期比8百万円増加（同比+2.86%）の2億94百万円（5期ぶりの増益）となりました。

なお、本業の儲けを示す実質業務純益は、2019年度計上した国債等債券償還損の影響が解消したこと等により、前期比41百万円増加（同比+17.91%）の2億73百万円（2期ぶりの増益）となりました。

また、自己資本比率は、分子である自己資本額を着実に蓄積したものの、その増加率以上に分母であるリスク・アセット額が増加したことから、9.14%となり、前期比0.07ポイント低下しました。

(参考)

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度	前期比増減額
資金運用収益	3,481	3,380	△101
不良債権処理費用	△27	△76	△48
コア業務純益	272	273	1
実質業務純益	232	273	41

(2) 主要科目残高の状況

預金	380,008百万円	(前期比 26,807百万円増加)
貸出金	150,676百万円	(前期比 7,155百万円増加)

預金は、個人・事業者向けの給付金やコロナ対応関連融資実行分の滞留等により、主に流動性預金が増加した結果、期末残高は3,800億円（前期比+7.58%）となり、当金庫初の3,800億円台に到達しました。

貸出金は、コロナ禍における取引先の資金繰り対策を最優先に、コロナ対応関連融資による支援を積極的に取り組んだことにより、期末残高は1,506億円（前期比+4.98%）となり、5期ぶりに1,500億円台を回復（2期ぶりに増加）しました。

(3) 金融再生法開示債権の状況

不良債権総額	12,566百万円	(前期比 552百万円減少)
不良債権比率	8.30%	(前期比 0.80ポイント低下)

金融再生法における不良債権額については、前期比5億52百万円減少（同比△4.20%）の125億円となりました。また、不良債権比率（金融再生法ベース）は、前期比0.80ポイント低下の8.30%となりました。

(4) 2021年度（第78期）における収益見込み

- ・ 経常収益 39～40億円程度
- ・ 当期純利益 1～2億円程度

2021年度につきましては、厳しい市場環境が継続する見通しであることに加え、特定地域における蔓延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言の発令など、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う実体経済・消費マインドの悪化等を想定し、経常収益は39～40億円程度、当期純利益は1～2億円程度と減収減益を見込んでいます。

以上

[お問合せ先]：企画・運用部（松田、中村、泉） TEL：0848-62-7143